



北海道内では札幌市に次ぐ第2の人口規模を誇る旭川市。北海道の中央・上川地方のほぼ中央に位置し、雄大な大雪山連峰に抱かれ、石狩川と多くの支流が合流する肥沃な盆地が広がっている。年間の寒暖差、昼夜の寒暖差がともに大きく、四季が明瞭で冷涼な気候で地震などの自然災害が極めて少ないことも特徴のひとつとなっている。

今回は、2021年9月に就任された今津寛介市長にお目にかかり令和6年度の市政方針について伺った。産業振興や地域の活性化に向けて、いかに住みやすく安全で利便性の高いまちづくりを行っていくか日々、市民優先の率先した取り組みを行われている。そこからは行政トップとしての気概が感じられた。

一新庁舎が開庁されました。目指すところのサービスは

2023年11月6日に開庁となった新庁舎では「市民の利便性向上」と「職員の働き方改革」の両立を目指しています。まず、市役所に直接来庁しな

くてもさまざまな行政サービスを受けられること、そして、来庁された場合でも各手続きが迅速にできる窓口を目指しております。具体的には市のホームページにおいてAIチャットボットを導入しており、市民にとって、電話や複雑な検索をしなくてもチャットで目的の手続きについて知ることができるようになっております。一方で、職員の視点から見ますと、AIチャットボットで対応した案件の分、電話やメールでの問い合わせ対応が減るなど、業務時間の削減効果が見込まれます。

また、従来分散していた窓口を新庁舎の低層に集約したことで、複数の窓口に行くために庁舎を移動するといった負担が大幅に軽減され、高齢者を含めた利用者の方からも大変好評を得ております。

さらに、窓口対応のマニュアルが紙ベースで整理されているという課題もありました。このような課題に対してはDXを進めることで、職員が迷わずに業務を行うことができる仕組みづくりを進めています。

こうした取り組みを通して、4年後に「行かなくてもいい」「行っても簡単」の日本一の行政窓口、9年後にデジタル行政日本一を実現します。

新庁舎内では食堂テーブルや待合の椅子さらには市議会議場など総数約800点1億7千6百万円相当の旭川家具を使用しています。また、展望フロアからは大雪山十勝岳連峰が望めますし、1階の旭川スポーツみらいアンバサダーコーナーでは元プロ野球選手星野伸之さんのスローカーブを体験できる「VR動画」、世界陸上女子やり投げで金メダルを獲得した北口榛花選手が実際に大会で使用した「やり」、東京2020オリンピック女子バスケットボールで銀メダルを獲得した町田瑠唯選手の「サイン入りバスケットボール」を展示しております。また、旭川東高校の野球指導に来ていただいたイチロー選手のサインボールも旭川東高校から寄贈いただき展示をしております。ぜひ多くの方に新庁舎に訪れていただきたいと思います。

一地域経済の活性化に向けた取り組みについてお聞かせください

我々の誘致活動が実を結び、2023年12月に市民待望であり旭川空港の国内定期路線で初となるLCC、ジェットスター・ジャパンの旭川ー成田便が就航いたしました。これを契機に今までもお越しいただいていた東南アジアからの観光客に加えて、成田空港経由にて欧・米・豪などからの観光客の大幅な増加を目指しています。旭川市の産業別就業者数を見ますと8割がサービス業などの第3次産業に従事していることから、観光客増加による経済波及効果は非常に大きいものでありますので、空港からの2次交通や英語案内の表記、医療提供時の多言語対応など外国人観光客の受け入れ体制の充実も進めていきます。

本市は2019年にユネスコの創造都市ネットワー

クのデザイン分野で加盟認定を受けておりますが、今年は「デザイン都市」としての取り組みを加速してまいります。取り組みは大きく3つあります。

一つ目は今年10月に、全世界から49都市の代表が集うユネスコ創造都市ネットワークにおける「デザイン分野のサブネットワーク会議」の旭川開催。二つ目は6月に開催されるIFDA（国際家具デザインコンペティション旭川）やあさひかわデザインウィーク、三つ目は大阪・関西万博共創プログラムのプレイベントの旭川開催です。

私自身も4月14日からイタリアのミラノで開催された世界最大規模の国際家具見本市「ミラノサローネ」に伺い、各国のデザイン関係者へデザイン創造都市旭川や旭川家具についてPRするとともに、デザインを通じた連携や交流を深めてまいりました。

このような国際的イベントの旭川開催を契機としてデザイン創造都市旭川の価値を高め、国際的に高い評価を得て更に魅力を発信することができるよう、官民が一体となってしっかりと取り組んでまいります。

一その他の取り組みについては

旭川の魅力のひとつである「食」について新たな取り組みを進めています。旭川市は、収量、作付面積、品質どれをとっても全道一の米どころであり、また、私は食味についても全道一であると自負しております。なおかつ約60品目という多くの安全安心でおいしい野菜が生産されております。この魅力を十分に発揮していくため、デザイン思考の第一人者であり本市CDP（チーフデザイナープロデューサー）に就任いただいている㈱KESIKI代表取締役石川俊祐氏を中心に「フードフォレスト旭川構想」を立ち上げ、生産者から流通、食の提供に至るまで、食に携わる人たちが事

業者を有機的に連携させる取り組みをスタートいたしました。その一つとして、今年度は「朝のあさひかわ」という朝ごはんにスポットを当てたプロジェクトを開始します。旭川市の観光入込客数のうち、旭川市に宿泊する延べ客数は約15%という統計データがあり、来訪者が市内に宿泊していただけていないという現状があります。食の集積地や農産物の産地であることなど、地元・旭川の食の魅力を発信し、人や企業を呼び込み、旭川市に滞在する方が増加するよう進めてまいります。

そして、もうひとつは中心市街地の活性化に向けた取り組みです。日本で初めての恒久的な歩行者専用道路である平和通買物公園は一昨年に開設50周年を迎えましたが、時代の流れのなかであり方が変化してまいりました。そこで昨年度、地域の方々に参加いただいた検討会議を開催し、その議論を踏まえ、「買物公園エリア未来ビジョン」を策定しました。今年度は市民や観光客が滞在できる空間の設置や電動モビリティの運行などの実証実験を実施する予定です。

一新年度がスタートいたしました。最後に今後に向けてお聞かせください

令和6年度予算は、「人口減少対策」、「地域経済対策」、「交流人口の拡大」、「DX・行財政改革」、「市民生活の安全安心」を5つの柱として編成しました。

旭川市は現在、庁舎建設事業に続き、買物公園のあり方に関する検討、花咲スポーツ公園のアリーナ新設や市民文化会館の整備についての検討を進めていますが、こういった事業は、まさに今後100年の旭川を占う「新時代旭川」の象徴となる施策です。新たなまちづくりの拠点としていくため、市民の皆様や議会、専門家の方の声を聞き、優先順位を考慮しながら、民間活力の導入や公共事業発注の平準化など、公共施設のマネジメント

にしっかり取り組んでまいります。

また、市税等の自主財源を確保し、財政規律をより確かなものにすることも重要と考えております。地域経済の活性化を着実に進めることはもとより、国や道の補助金の積極的な活用や、ふるさと納税・企業版ふるさと納税の推進、受益者負担の適正化の取り組み、DXによる市民の利便性向上や業務の効率化を実行し、将来負担の軽減と必要な投資の両立を責任持って進める必要があると考えております。

私の基本的な政治姿勢は、市民の皆様の声をお聞きし、政策として実行することです。市民の皆様と議会の皆様方、行政が心をついに力を合わせ未来を切り拓いて行きたいと思っています。世界に輝く北海道の拠点都市・旭川の未来を想像し、真に持続可能な旭川の礎を創造するため、令和6年度の「旭川新時代・創造予算」を力強く進めてまいります。

一本日はありがとうございました

市町村概要

北海道旭川市

人口：318,088人（令和6年4月）

総面積：747.66平方キロメートル



今津寛介市長プロフィール

昭和51年12月生まれ（現在47歳）

旭川市出身。

平成11年3月 中央大学経済学部経済学科卒業

平成15年11月 衆議院議員秘書

令和3年9月 旭川市長に就任